

指導方法の系統性と統一性を大切にした小中連携

ねがい

〈目的〉

信頼される人間関係づくりのために、教員は、「わが校区の子どもは9年間で育てる」という意識で教育活動に取り組み、結果として、「先生は信頼できる」と思える子どもを育てる。

〈内容〉

つながり

● 児童生徒の自主活動による連携活動の推進

各校が単独で取り組んでいる人権学習や地域交流学习を児童会・生徒会活動に位置づけ、各校の児童会・生徒会が中心となって計画立案を行い、自分たちの手で行事を作り上げていく手法を学ばせ、成功や感動の体験を通して、児童会や生徒会活動の充実感へとつなげ、それを小中連携活動へと高めています。

〈小学校の取り組み〉 地域の連携を図った児童会活動

児童会活動として、地域の高齢者など年齢の異なる人たちとの交流を系統的に位置づけ、地域の方々との結びつきを強め、地域への愛着が段階的に深まるようにしました。



【高齢者との交流をしている様子】

〈中学校の取り組み〉 強めよう絆月間の計画案の作成

「強めよう絆」月間準備委員会の実施

- ① 実施時期 …… 12月3日(月) 16:00～
- ② 構成者 …… 生徒会本部役員3名、人権委員会各学年委員長3名、教頭、道徳主任
人権同和教育主任、生徒指導主事、生徒会担当、人権委員会担当
- ③ 内容 …… ア 「強めよう絆」月間の実施の目的説明(教頭)
イ 「強めよう絆」月間と全校人権集会との関連づけの検討(司会:生徒会)
ウ 全校人権集会と各学級の取り組みとの関連づけの検討(司会:生徒会)
エ 全体テーマの決定方法の検討
オ 役割分担

● 受容と寛容の姿勢で取り組む指導体制の推進

生徒の行動の裏側にある思いを大切にす受容と寛容の姿勢で指導にあたる中学校の指導体制を小学校段階から実践し、「先生は信頼できる」と思える人間関係づくりに努めています。

高まり

〈成果〉

- ① 小学校では、「学級や学校をより良くしよう」の意識が児童に芽生えかけています。
- ② 中学校では、生徒の思いを聞く姿勢が重要なことを教員の多くがより深く自覚できています。
- ③ 小中学校とも、児童会や生徒会活動の必要性を徐々に感じ始めています。